



- 1978年 東京都に生まれる。
- 1998年 京都大学経済学部入学。
- 2001年11月 在学中に有限会社ドリコム設立。
- 2003年 同社を株式会社化。
- 2004年 東京支社開設。
- 2005年 ドリコムテック設立。
- 2005年3月 京都大学中退。
- 2006年2月 東証マザーズ上場。
- 2006年5月 株式会社ドリコムジェネレーティッドメディアを設立。現在27歳にして、最年少の上場企業社長。

「社長になりたい」「起業してみたい」……。そんな風に憧れたことのある人は実は多いのでは？ 今回は、京大出身の起業家であり、今年上場を果たした株式会社ドリコムの代表取締役である内藤裕紀氏にインタビューさせていただきました。(b)

❁ ドリコムとは？

一般によく言われているのはブログの会社ですね。ブログサービスと、あとは広告配信サービスをやったりとか。今やっている事業は主にそんな感じです。

社名の正式な由来と言うのは実はなくて。社内のメジャー説は、「dream」と「community」の頭文字から、というものです。「目標を大きく持って新しいことをやっていこうという仲間が集まる、会社そのものがcommunity」って考え方が人気です。

社員が今約120人で、大体100人が東京に、20人が京都にいる形になります。僕は基本的に東京の本社にいますね。今は新卒採用で、隔週くらいで関西に来てます。エントリーが4000人で採用が30人なので、倍率はまあ高いほうかなと。

今後の目標の1つに、「世界中で使われるサービスを作ろう」ということがあります。とりあえずは売り上げ無視なんですけど(笑)。日本のインターネットサービスは、ほとんどが世界のもののローカライズなので、その逆をしたい。

❁ 成功への道程

元々発明家になりたいと思っていました。受験しなきゃいけないなくなったときに、ノーベル賞が多いってことで京大にしました。で、経済学部に来たんです。

入って1年経たないうちに自分で事業を始めました。最初はパソコンの家庭教師の派遣センターを作ろうとして、見事失敗して(笑)。そこからいろんな会社でお手伝いさせていただく中で勉強させてもらいました。3回生で休学したところに、学生ビジネスプランコンテストというものがあって、そこで大賞100万円いただいて。そこから人を集めて立ち上がっていったという、ホントに学生ベンチャーにありそうな立ち上がり方をします(笑)。

そのころは十条に一軒家を借りて、そこを事務所にしてメンバーと住み込みをしていました。ゴキブリが盛り沢山なのは当たり前で、ゴキブリを食べるネズミも盛り沢山、家に帰ると飼ってない猫がネズミ追ってたり(笑)。あのころは芽が出るかどうか紙一重な時期で、ほとんど

の時間を仕事に費やして、極貧生活をしてましたね。

基本的に楽観主義なので、全体的には楽しんでやってきました。でも、1人でやってたころはやっぱり辛かったですね。あとは会社が立ち上がったころ、会社の決算が39,000円しかなくて、赤字が500万円ありまして。で、せっかく会社やってたけどみんななくなってしまふなあ、と思いました。それだけは自分で何とかしないとって思って、孤独だった部分はありましたね。先が見えないまま頑張るのが大変なんですよね。心が折れそうになる瞬間とか、そういうのはありました。

▶内藤社長ご自身のブログ、
「Number710 (http://blog.drecom.jp/naito/)」



(法・3 影法師)
(無力ですみません；編)

はみだし
すてーじ
講義中にらいふすてーじ読んでクロスワードやってます。
→素晴らしい！ 単位をあげたいくらいですが……。

京大での思い出

いっぱいピラ貼ったなあ(笑)。そんなことをしてましたね。

入ってからすぐ塾の先生を始めて、ほとんど授業出てなかったんですよ。その後すぐ事業を始めたので、単位も全然なかったです。1年目はフランス語取ってたんだけど落として、2年目で中国語をホントにいっぱい登録したんだけど、そもそも何に登録したかわかんなくなっちゃって。どれに出てたんだっけみたいなの。結局取らないまま大学辞めちゃいま

した(笑)。上场する際に、学生では事例がないからさすがに厳しいんじゃないかと言われて、学生というだけで上场できないのは馬鹿らしいと思って辞めました。7回生のときですね。

もう一度大学生活ができるのであれば、サークルとゼミに入ってゼミ宿舎とか行ってみたいなあっていう気もしますね。やったことないんで。

でも京大なり京都なりでの、会社のメンバーとの出会いは重要だったなあっていうのはすごく思います。京都に来てな

かったら、少なくとも今のドリコムっていう会社はなかっただろうなあと思いますね。

▶多忙な内藤社長のご趣味は、洋服と漫画だとか。実はインタビュアー内にも漫画好きの面が表れています。



社長像・会社像

僕は、みんなの最後にケツ持つっていう形なんです。最後にケツ持つから好きなようにやってくれっていう方針で、みんながやんちゃできる会社になりたいなって。最後は内藤さんが何とかしてくれるだろうから、ギリギリまで自分から頑張ろう、っていう関係でいれる会社がいいなど。でもそう言っているとほんとにいろんなもの持ってくるんだよね。これ何とかできますよね、って。いやホント、俺ドラえもんじゃないからさ、っていう会話が時折、社内では出ている(笑)。

あと、偉そうにする奴は格好悪いみたいな文化があって。結果を出せばみんな褒めてくれる、それでいいじゃないかっていう環境があるので、誰も偉そうにしないんですよ。ただお互いに能力を認めているから、いざというときに頼んだりできるし、困難があっても超えていける。スラムダンクの流川と花道みたいな(笑)。

僕は就職活動もしたことがないし、説明会にも行ったことがありません。今その状態で新卒説明会してるので、何話していいかわからないんです。だから説明会では、勝手に自分が面白いと思うことをやっています。実はあんまり勧誘はしてないんですけどね。志望を聞いて、この会社のほうがいいんじゃないかとか言ったり。学生さんからすると、この会社はちゃんと自分のことを考えてくれる、と思うらしいです。だから結構評判がい

いですね。今のところ20人強に内定を出してるんですけど、誰も辞退しないんで。辞退ゼロっていうのは驚異的なんですよね。これはすごい。

「みんな自分の会社に入りたいんだ」という前提で説明をする会社もあるんですけど、うちはそうじゃなくて、全員がうちを信用しているわけではないんですけど前提でやっています。

京大生へ

起業を目指す人は、何をしたいか目指しているのかをちゃんと1回考えて。起業したくて起業しているっていうのでは本末転倒なので。

あとは、とりあえず1,000万でもいいから稼ぐっていうのが重要な。結果を出してる人の話は面白そうだけど、「こういうことしたい」って人の話には「頑張ってるね」って言うほかない。それで終わっちゃう話はやっぱり発展ににくい。結果出してるっていうのは興味を持たせる力だよ。結果が信用になって実績になって次に繋がる。あとは、大きな失敗って大きな成功がないと実はできないんです。借金とかでもそうなんですけど、みんなに「今から1時間で金借りてきて」って言っても、1,000万も借りられないと思うんです。10億円の借金を作れる人は、10億円借りられる人だからすごいんだよ。そこが大事なんじゃないかな。

大学時代は人生の中で完全なるロングバケーションなので、どう過ごすかが本当に重要だと思いますね。何やってたかよりも、その中で何を見つけられたかっていうことがやっぱり重要。

京大にはあるライン以上の人が行くので上限がない。突き抜けた人もいますよ。その人たちとの出会いは大切にしたいほうがいいんじゃないかなって思いますね。社会でも突き抜けたことをしていく人たちが多くいて、刺激も受けるだろうし、自分だって何かができるんじゃないかと思うだろうし。そういう人たちと出会える環境はこの大学は多いだろうなあと思います。

何だかんだで、京大生は京大生っていう枠にあるんだけど、世間に出たらあんまりそんな関係ないので。大学って何でもできるって思って、「こんなことやんねえだろ」みたいなことをやってみるのはいいアイデアかなと思います。いろいろやってみたらいいんじゃないかな。京大生がそういうことしようと思うことに関して、誰も社会的に損をするわけじゃないでしょ。誰がそれを悪いと思うんだって話で。殺人事件をしようとか泥棒をしようとかいうわけじゃない。

大文字焼きを犬にするとか……あれはちょっと悪いな(笑)。ギリギリじゃなくもう黒に近い。人に迷惑をかけない範囲でやっていったらいいんじゃないかな。

—ありがとうございました。

はみだし
すてーじ

「道」を通り抜け、気づいたら手にはピラが246部ありました。
⇒お疲れ様でした。私はゴールで袋を配っていました。

(工・1 非文系)
(人生で一番感謝された瞬間かも……; 編)